



赤木 純児 先生

玉名地域保健医療センター院長



第2部

免疫の力でがんを治す

～免疫のアクセルとブレーキ～

「最後まで病氣と闘いたい」「やれるだけの治療をしたい」と願うがん患者。その一方で、医師側には意識のずれがあるという調査もあります。「もう治療法はない」と言われ、同センターを訪れた患者の中には、免疫を主体とした治療を行った結果、改善したという症例が数多くあります。また、免疫が正常でなければ抗がん剤も放射線も効かないというデータもあり、まさに「がん治療

「最後まで病氣と闘いたい」「やれるだけの治療をしたい」と願うがん患者。その一方で、医師側には意識のずれがあるという調査もあります。「もう治療法はない」と言われ、同センターを訪れた患者の中には、免疫を主体とした治療を行った結果、改善したという症例が数多くあります。また、免疫が正常でなければ抗がん剤も放射線も効かないというデータもあり、まさに「がん治療

がん治療において、免疫は不可欠

【症例】50歳男性/食道がん(ステージIV)

ハイパーサーミア
低用量化学療法
オプジーボ
水素ガス

1年7カ月経過し、
がん(O部分)がほぼ消滅

がん細胞を認識してこれを殺傷できるキラーT細胞を誘導すること＝最強の兵隊



ポイント

複合免疫療法がとても有効です

- 1.低用量化学療法 → 少ない量の抗がん剤でも十分
 - 2.ハイパーサーミア → 温熱療法で血流や免疫環境を改善
 - 3.水素ガス → 疲弊したT細胞を回復させる
 - 4.6種複合免疫療法 → T細胞をさらに活性化させる
 - 5.免疫チェックポイント阻害剤 → T細胞の活性化を維持して、がん細胞を攻撃する
- ⇒ 末期がん患者に治療をもたらす！

6種複合免疫療法の特徴と期待できる効果

- 1.他の施設の免疫療法より高い治療効果を示している
- 2.副作用が少なく精神的・肉体的負担がない
- 3.抗がん剤・放射線治療との併用が可能。また、これらの治療による副作用の軽減
- 4.再発・転移した多くの種類のがんに対応可能
- 5.手術後の再発・転移の予防
- 6.治療は採血と点滴なので入院の必要がない
- 7.QOL (生活の質)の改善

がんと診断されたら…

- 1.がんに対する正しい情報収集能力をもつ
- 2.セカンドオピニオンを活用する
- 3.手術可能な場合は、年齢に関係なく手術を受ける
- 4.治療に耐えられる精神力と体力をつける
- 5.標準治療を理解し、それを基準にして他の治療を検討する
- 6.緩和ケアを積極的に取り入れる
- 7.抗がん剤の「やめ時」を知る
- 8.人生観にあった治療を選ぶ

がんの第4の治療法として注目の「免疫療法」。3人の専門家の講演をレポート

がん治療の新たな主流「免疫療法」

3月9日、「リビング医療セミナー」をパレオホールにて開催しました。今回のテーマは「がん治療の新たな主流となる免疫療法」。日本人のノーベル賞受賞で話題を集める「免疫」について、第一線で活躍する3人の専門家が講演。その一部を紙面でレポートします。



主催/熊本リビング新聞社
同仁がん免疫研究所

問い合わせ/同仁がん免疫研究所 ☎ 096(285)8815

第1部

免疫療法の何がすごいのか!?

～2018年ノーベル賞受賞の裏側～



西川 伸一 先生

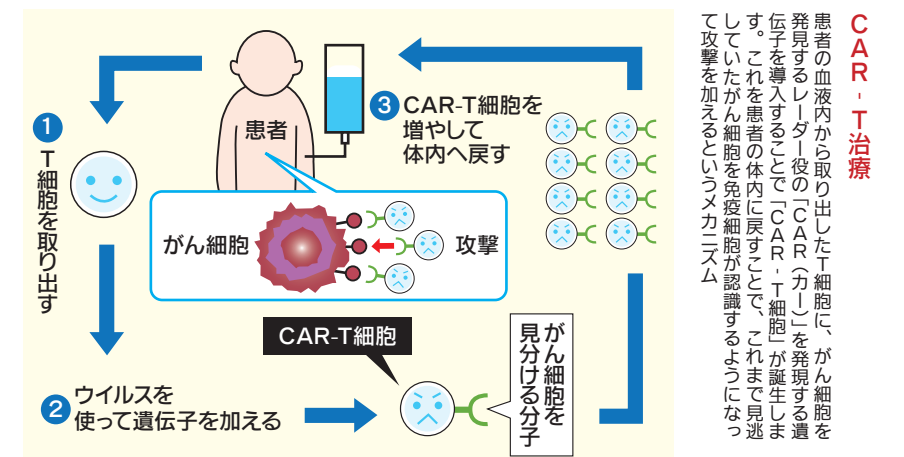
京都大学名誉教授、
オールアバウトサイエンスジャパン代表理事

21世紀「免疫」が、がん治療の第一線に躍り出た！ 今後ますます開発が加速

私たちの体は、日々発がん細胞を免疫によって排除しています。免疫はいつも同じ状態ではなく、強まったり弱まったり（ブレーキがかかると）しています。がん細胞は、この免疫のブレーキを外して、悪用して、T細胞などの免疫細胞が自分たちを攻撃しないように働きかけ、このブレーキを外して、オプジーボをはじめとする薬が、がん治療に利用されています。

がん細胞は異物?

がんには驚くほどの数の突然変異が起こっていて、その突然変異の中の一部は、正常細胞にはないがんだけが持つ抗原になることが判明。これも21世紀に入り、がんの遺伝子レベルでの研究開発が進んだことによってもたらされたものです。免疫細胞は、このがん抗原を自印にして異物



第3部

世界が注目する熊本の技術「6種複合免疫療法」

6種の免疫細胞によるチームプレイでがんを闘う力を増強させます



澤登 雅一 先生

三番町ごきげんクリニック院長、
東海大学血液腫瘍内科客員講師

従来のがん治療は、①どの部位にできた②どんな組織の③どの程度進行した④がんの⑤かによって画一的な治療が行われてきました。しかしこれからは、がん細胞が「遺伝子的にどんな特徴を持っているか」によって治療薬を選択する時代へと突入しています。

免疫療法とは、がん患者の弱った免疫細胞を体外に取り出し、人工的に培養、増殖・活性化して再び体内に戻し、免疫力を回復させてがんを治したり、症状を軽減させるための治療法です。なかでも「6種複合免疫療法」は、6種類(下表)の免疫細胞の役割

【ヘルパーT細胞】がん細胞に攻撃を命じる免疫の司令塔

【NKT細胞】INF-γを放出し免疫のネットワークを同時に活性化

【NK細胞】常に体内をパトロールしがん細胞を見つけ次攻撃する

【キラーT細胞(細胞障害性T細胞)】指令に忠実な必殺仕置人で、がん細胞を見つけ攻撃する

【γδ(ガンマデルタ)T細胞】強力ながん攻撃作用を持ち、がん細胞の抗原を腫しているがんを攻撃する

【樹状細胞】がんの情報を入力し攻撃目標を上記5つの細胞に伝達することで、高い治療成績を収めています。

がんの3大治療とも併せて数を増やし、その相互作用によって免疫力を高めるといって画期的な技術です。例えるなら、1人のスタープレイヤーの力が少なく、QOLの向上が見込まれるなど多くの利点があります。熊本発・世界に先駆けて開発された「6種複合免疫療法」に期待が膨らみます。